



1 「受けた恩を次世代へ」 米山学友からの高額寄付

米山奨学生として受けた支援を、次世代の奨学生へつないでいきたい、との思いから、当財団へ500万円の寄付をしてくださった台湾出身の米山学友、ウィリアム ファンさん（1998-99／海老名樺RC）のメッセージをご紹介します。

【ウィリアム ファンさん】



奨学生時代、世話クラブの皆さまからの温かい歓迎とご支援を受け、「受けた恩を次世代へつなぐ」ことの大切さを学びました。この気持ちを形にしたいと思い、寄付させていただきました。当時を振り返ると、例会で受けた温かいおもてなしや、私の近況を常に気にかけてくださった会員の皆さまの優しさが深く心に残っています。

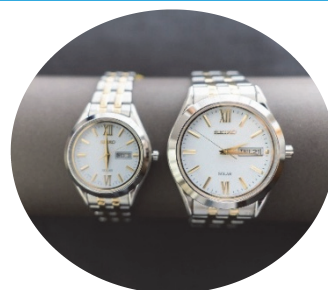
他者が自分に与えてくれたポジティブな影響を「忘れない」ことが何より大切だと思います。だからこそ、米山学友として寄付することに大きな意味があると思います。米山奨学事業が米山奨学生に注いでくれる支援に対し、私の小さな貢献が共感を呼び、他の学友たちもそれぞれの立場で恩返しを考えるきっかけになれば幸いです。それが結果として、日本と母国との架け橋を築くという米山奨学会の目的を前進させることにつながると信じています。

勉学に励む米山奨学生の皆さんには、米山奨学会やロータリー会員の皆さまが示してくれた善意とサポートを忘れないでいただきたいです。そしていつの日か、あなたなりの方法でその「恩」を次世代へとつないでいてください！

2 博士号取得状況

2025 学年度に博士号を取得した奨学生は30人、学友は18人となり、これまでの累計は4,275人となりました（5月1日現在）。

米山記念奨学会では、博士号を取得された奨学生・学友の皆さまへお祝いとして腕時計を贈呈しています。裏ぶたに氏名を刻印した世界に一つだけの記念品です。なお、クラブ会員の皆さまに米山奨学事業の成果をご報告いただく機会として、原則としてクラブ例会での贈呈をお願いしております。これをきっかけに学友との交流が再開されたとの報告をいただくこともあります。博士号を取得された奨学生・学友がいらっしゃいましたら、当財団事務局までご一報くださいますようお願い申し上げます。



文字盤の裏に氏名を刻印

申請方法

- ・奨学期間終了後の取得でも対象です
 - ・お届け先は、原則として世話クラブです（納品まで約2～3週間かかります）
- 「学位記の写し」もしくは「学位取得証明書」と、当財団書式「博士号取得報告書」の2点を世話クラブから米山奨学会へメールやFAXなどで送信（FAX:03-3578-8281／email: alumni@rotary-yoneyama.or.jp）

3 寄付金速報 — 今年度も残り1カ月半 —

前年同期比

-2.4%

普 +0.5% 特 -3.9%

4月末までの寄付金は、前年同期と比べて2.4%減（普通寄付金：0.5%増、特別寄付金：3.9%減）、約2,800万円の減少となりました。

創立記念寄付として14クラブより計185万円の特別寄付をいただいたほか、100万円を超える大口寄付が3件ありました。皆さまからのご支援に、心より厚く御礼申し上げます。今年度も残りわずかとなりましたが、当事業へのご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

4 同じクラブから 2 人同時に紺綬褒章受章

第 2760 地区知立 R C の大橋均氏と安井喜秀氏が、2025 年 11 月 22 日付で紺綬褒章を受章しました。同一クラブから 2 人同時に受章されるのは、当財団では初となります。

4 月 22 日の同クラブ例会にて、褒章伝達式が行われ、出席した当財団の神野重行常務理事か

ら褒章が伝達されました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄付し、その功績が顕著な個人または団体に対して天皇陛下より授与される褒章で、当財団は 2018 年 9 月に紺綬褒章の公益団体認定を受けています。受章された皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

5 米山奨学生を連れて奉仕活動へ

2 月 28 日から 3 月 3 日にかけて、第 2590 地区横浜鶴見北 R C 会員を中心とする 16 人が、同クラブの米山奨学生の母国であるマレーシア・ペナン島を訪問しました。

現地では、障がい者就労支援施設を訪問し、活動資金を寄付したほか、バティック染めなどの活動を視察し、参加者も製作を体験。また、



滞在中にはマレーシア米山学友会の学友たちとの夕食会が開催され、翌週に控えていた同学友会総会へのお祝いを手渡すとともに、各地で活躍する学友たちの近況に耳を傾けました。

同クラブでは毎年、米山奨学生や学友と共にを行う奉仕活動を継続しています。かつて世話をしたベトナムやタイの米山学友とも深い縁が続いており、現地での奉仕活動や、災害時の支援を学友に託すなど、強い信頼関係を築いているそうです。

参加した石渡宏衛会員は、「学友を介して、現地で本当に支援を必要としている方々に直接会うことができます。共に活動することでクラブ内の米山奨学事業への理解もより一層深まっています」と語り、学友と行う国際奉仕の意義を再確認する機会となりました。

6 米山学友がロータリー入会、そしてカウンセラーに

今回は、かつての世話クラブに入会し、今年度から米山奨学生のカウンセラーを務めることとなった韓瑜さん(2013-14/東京米山友愛 R C)のインタビューをご紹介します。

【韓瑜さん】

米山奨学生としての期間終了後、学友会活動を通じてロータリーのつながりの強さに感銘を受け、クラブの先輩方にお声がけいただいたことで、入会を決めました。以前は支援を受ける側でしたが、会員となった今は「恩返しをしたい」という思いをより強く持っています。奨学期間終了から 12 年という月日を経て、再びロータリーの原点に立ち、「初心忘るべからず」を銘として再出発できることを嬉しく思います。今回、カウンセラーという役割を受けるにあたり、



米山奨学生と記念の一枚を撮る韓瑜さん(左)

本当に光栄です。奨学生時代に心に蒔かれた種が、歳月をかけてようやく開花したと感じています。私がバトンを受け取り、事業の伝承に貢献できることは大きな意義があります。留学経験という共通点を持つ奨学生をサポートし、共に成長しながら、日本と世界を結ぶ架け橋となるよう尽力したいです。